

## 岡山県

たわけです。叙勲については、折り込みの陳情書を持って国会の議員さんをお願いに行きました。以上です。

岡山県の福岡 トキ子でございます。事実をマイナス3、プラス3を報告したいと思えます。マイナスはできれば言いたくないのですが、いたしかたありません。昨日までに一年間に物故者が十八名、離会が十二名、計三十名減で大変痛いです。一番目として、組織なんですけれども、二十支部があります。その二十支部のうちの一つがつぶれました。大幅に人数が減ったということになります。

三つめは新入会員を増やさなければ、三十名のマイナスをなんとかしたいと思えますが、山口県の三〇〇名をキープという目当てが羨ましく思います。岡山は二五〇名を目当てにしているかどうか不安な思いをしています。新入会員は現職の教頭会にもお邪魔しているいろんなアピールをします。今年三五名の退職者の内に入会の言葉をもたらったのが八名、約二〇%。そのうちのお一人が十日前にお葬式をなさいました。本当に辛い思いをしました。退職されて二ヶ月にもならないのに亡くなられると言う事からして、教頭職の激務を思わざるをえません。マイナスの三点です。

次にプラスなんですけど、先ほど山口の会長からお話がありました。ブロック会でたくさんものをいただきました。一つは過去話にありました陳情をする時の文章、全国からもいい文書がいただけると思いますが、二か月前にブロックの会が山口県でありました時に、森脇会長さんにこの文書いいからいただきますね、参考にして書かせていただいていますかと聞いて、許可をいただきました。

た。新入会員の誘いの文書は、現職の会に行つた時に文書は出さずに、三役が並んで、にこやかな顔を見てください、ということアピールをしてきた。しかし文章を出すことも良いない、森脇会長さんが書かれた文章を岡山県用に味付けをして、来年の三月あたりに持つていきたい。ブロック会で力をたくさんいただいています。これプラスです。

それから今年二七年度、副会長が今まで二人だったのですが全国の会長さんがおつしやつた文殊の知恵の三人になります。副会長になろうと二人立候補してくれました。そこで思ったのですが、会長が緩やかなのも良いことあるな。立候補してもらつて二七年度は三人の副会長です。新しくなろうと言つてくれた人に、支部活動の活性化をテーマとして、支部活動十九になっていますが、その活動そのものが組織の活性化につながります。どのようにすれば支部の活動がうまくいくかを考えてください。とテーマを渡しています。きつと二七年度はいいものが生まれるのではないかと楽しみにしています。

プラスの三つ目、先ほど静岡の方と山口の方がお話になりました。作品展です。今まで岡山ではそれをやっていませんが、総会の時に自慢話をしようということで、作品でも短歌、和歌、川柳でもいいから、今やってる人が



大勢いますから、それを皆の前で披露しようと、展示できるものそのとき展示しようと、三役の会で考えております。遅まきながら作品展の仲間入りをしたいと思えます。その事で総会つて楽しいなみんなと手をつないでいこうな。とか言うようなことも組織の活性化につながるのではないかと楽しみにしております。マイナス三点、プラス三点を報告させていただきました。

## 滋賀県

滋賀県の三谷 誠二です。大変恥ずかしい話でありまして、どの顔、どの面下げて全国大会に行くのか。そういう恥ずかしい思いを現在もしています。ましてや今日ここに、来させていただいて、となりの岡山県の会報に取り上げていただいて余計恥ずかしい思いでいっぱいでありまして。昨年この会議の会場でなんで勢い余つてあんなことをしゃべつたんだろう。大言壮語したやろうと、ひどく反省しております。結果としては肩書きがついてしまつて、大変それが重い物になっています。

実は滋賀県は昨年そんなことを私が言つてるにもかかわらず寝たきりでありまして、開店休業をしておりまして、いつも皆様の手元には会報が二部配らしてもらつていたのですが、今年何にもないというのはそういうことであります。どうしたものかと思うのは、私自身が去年一年間にいろんな私的なことで忙殺されておりました。こちらの方を考えている動きがなかったのです。それが、嬉しいことなのか心配なことなのか、副会長以下の会員がそのことについて、何しとるのと二つも言つてくれない。それぞれが民生児童委員とか地域の自治会長だったとか、第二の職場でも日曜日しか休みがないんだとか、

そういう風なことをしておりますから、私の方が声かけないのを幸いとすべきなのか、何かそれをうれしいことか、充実して生きておられるから嬉しい事でもあるんですが組織としてどうなのかと、そういう心配をしていますが。だから今年以降を私自身も、もう少し考えないといかんなど、いう風に思っています。

つまり会長を新しい方にさせていただいて、一会員として出直していくという形でこの一年から、せつかく作つたものをつぶすわけにもいきませんから、と言うことを考えています。だから今回について恥ずかしい限りでございます。それを押して出席させてもらっております、もう一度の初心に戻りまして、発足した通りの勢いがつきますように頑張っていきたいと思っておりますので、来年少し報告できればいいかなということ許してください。

## 三重県

三重県の会長の岡 英昭と申します。

### 一「叙 勲」

設立当初は叙勲問題に対し、役員会、総会などで積極的に本部（執行部）を中心に動くように議論され、県教育委員会へ働きかけを行ってきた。しかし、結成以来四半世紀を経て会員の意識も変わり、叙勲に対する価値観、関心は薄れ、総会においても「本部は叙勲問題にのみ力を傾注すべきでない」「本会の活動の趣旨は叙勲問題ではなく、会員相互の親睦、情報交流である。」などの意見が出され、県教育委員会交渉も中断している。今後もこの問題についての積極的な取り組みは予定していない。

### 二「組 織」

事務局運営を職員、事務所を現役教頭会と一体化し、資金の拠出もしていただいている。執行部で適宜現役理事会などに出席し、活動報告や資金依頼などを行っている。

三月末日に教頭退職予定者を把握し、入会案内と会費振り込み用紙などを送付して会員増加に努めている。また組織改革として、「研修」「親睦旅行」「広報」の三部の専門部を設置し、各支部長が希望の部に所属し行事の推進、運営に当たりこれまでの本部中心から変革させた。結果、行事が活発化してきている。

個人情報の法的課題はあるが、会員の支部ごとの名簿を作成し、支部長のみ配布し、加入促進や行事の参加に活用させてもらっている。児童数の減少による学校の統廃合で、教頭ポストも減少傾向にあり、今後主幹教諭・指導教諭で退職された人にも加入拡大を図るなどの検討も必要となってくる。

### 三「広 報」

会員に支部長を通じて、期日までにFAX、郵便、メールなどで原稿を送ってもらえるよう依頼をしたり、はがきに野線を入れて文章を書きやすいようにし、全会員に郵送してもらおうよう送付している。また、南北に長い三重県を紙面上に「北から南から」というコーナーを設け、支部長などによる地域の話題をペンリレーで掲載している。表紙も同様に各地域の景色、風物詩などを輪番に作っている。支部活動、3部の専門部活動、県教育委員会の原稿、本部役員活動も必ず入れるようにしている。経費削減のためこれまで印刷屋に委託していたものを広報部員により校正や編集、印刷、製本を行い、手作りのものを会員に配布

している。

### 四 その他（全退教への意見具申）

全退教の事務局態勢の強化、基盤の安定化を。そのために事務局長職と事務局次長等補佐体制をきちんと整備し、事業推進に努めていただきたい。

東京近郊の先生が役職についていただき、会議の招集をスムーズに行い機動力のある本部体制の充実のため組織改革をお願いしたい。

協力団体、支援していただける企業を開拓し、資金援助を受け財政基盤の安定化を図っていただきたい。

## 広島県

広島県の山田 喜久次でございます。昨年広島市内で豪雨がありまして、被災に対しまして、本部からお見舞い金をいただいたり、あるいは皆さんの中からお電話や手紙をいただきました。ここでお礼と感謝を申しあげます。二番目に資料に基づきまして、変わった事だけを話したいと思えます。各県と同じような、深刻な過疎地帯対策であるとか、会員の減少であるとか未加入者の問題とか、特に未加入者は年金問題等がいろいろありまして、各自の経済までタッチすることはできませんから、難しいところです。健康悪化で物故者がだんだんと増えて大変心を痛めています。

そのようなことからどうあるべきかということ、組織改革をいたしました。資料でございますけども、六支部ありましたものを、縦割りにしまして、三支部にしまして、今年度から活躍をしています。おかげで昨日、一昨日と、総会をいたしました。皆さんが大変協力的であります。その組織については、福利、専門委員会を

中心にやっていることが、いちばん良いのではないかと  
いうことで、叙勲、福利厚生委員会、広報委員会、組織委  
員会と三支部を設けまして、活躍をさせていただいでお  
ります。これが広島県としては大きな問題で、今後もち  
れがどのように発展していくか、大変心配もすると同時  
にうまくいきそうだなということでございます。

特に悩みは新会員の確保が一番でございます。あるい  
は退会者のことかいろいろあるわけですが、一番の悩  
みとしましては、年金問題で経済的な問題があるもの  
を、強く要請するわけにはいきませんので、そのあたり  
が一番の悩みでございます。それから、先ほど山口県の  
方から、話が出ましたが幸いにも、中国地方の役員会を  
山口で行いました際に、岡山からも話がありました。決  
議事項として叙勲問題は、ここに出席された方、本部だ  
けでなく、会長がすべて連名で出していくという運動を  
展開しなければいけないのではないかと。という話が出ま  
して、後ほど議長さんがそれを取り上げて皆様とともに  
考えていきたいなと思います。そのほかに絆とかありま  
すが、これは読んでいただければ幸いです。よろしく願  
います。

## 富山県

富山県の富山支部代議員の玉井 幸雄でございます。

富山県としても平成四年の教頭会設立以来【総務会  
報、福利厚生、叙勲推進】の委員会を軸に今日まで活動  
してきました。御多分に漏れず、会員の高齢化など共通  
課題に心を痛めておりますが、今後も四部会を通じて広  
報活動の充実と会員の親睦交流をより深めることに  
よって、非加入会員の関心を引けるのではないかと活動

しております。

特に年二回発行の会報では、努めて各界で活躍してお  
られる方々に原稿を依頼する、また福利厚生委員会では  
活動内容が毎年同じパターンにならないように、試行錯  
誤する等、工夫しております。ところが今年の叙勲推進  
委員会が出た話では、入会勧誘を行う時、叙勲のことを  
話すと『叙勲を受けるために教育の道を選んだのではな  
い』と、これを理由に入会を断る方がいるとのこと、世  
代間の意識の相違が、今後の課題となりそうです。

(一)教育経験を生かした社会貢献と生きがい活動の推進

退職後、再就職し第二の人生を歩んでいる者、充実  
した家庭生活を送ろうと努めている人、家族の介護に  
汗を流す人、趣味を活かして日々の生活を充実したも  
のにしようとしている人、教育関係施設に再就職し、  
元教員としての資質を活かしている人、様々である。  
その中で、教育経験を活かして地域社会へのボラン  
ティア活動を、退職教頭会の会員として行っている人  
は意外と少ないのではないかと思われる。退職教頭会  
としてまとめ、地域貢献する機会を設けていかなけ  
ればならないのではないだろうか。

(二)広報活動の充実と会員の親睦交流

退職教頭会を維持発展し

ていくために、広報活動や親  
睦会は是非必要だと思つ。

「広報編集委員会」では先  
輩方から受け継いだ会報「た  
ちやま」を年二回発行してい  
る。原稿依頼や校正、編集、配  
布と張り切っている。各界で



活躍している方に巻頭言を寄せて頂いたり、四つの委  
員会の活動状況の報告や親睦会の紹介などを載せて  
いる。今年も編集会議を七回以上計画し、第四七号・  
四八号の発行を予定している。

「福利厚生委員会」では、心身をリフレッシュしよう  
と二泊親睦会を年一回行っている。ゆったりと温泉につ  
かつて、楽しいひとときを過ごし、互いの現況を語り、  
情報交換し合い、豊かな生活を送っていきたくないと願っ  
ている。懇親会の前に、講話や会員代表の退職後の体  
験談など聞き、研修している。懇親会では会員が口頃  
心がけていることや体験したこと、生き甲斐にしてい  
ることなど、気軽に紹介し合い、情報交換している。

(三)教頭の叙勲・叙勲受章確保の推進

富山県選出国会議員と県教育委員会に対し、陳情  
を行っているが、その後どのようになっているか、確  
認をしたことがないので、今年はその確認も行ってい  
きたいと考えている。新規会員の勧誘を行うとき、活  
動の目的に「叙勲を受ける」があると答えると、「そ  
れでは人らしい」と断りを受けることがある。

また、会員の中には「叙勲を受けるために、教育の  
道を選んだのではない」という気概を持っている人も  
いる。世代間の意識の違いを感じさせられる。「教頭  
が叙勲の対象となっていない。同じ管理職なのに不平  
等だ」と過去を振り返るより、今現在、これからは、  
教頭職を体験した仲間同士、楽しく、明るく有意義  
に過ごすために活動していこうと考える会員が多く  
なってきたのが現状のようである。

ありがとうございました。

山口県から提案されました件に関して、多くのご意見を頂きました。また、広島県からの提案にしましては、時間の関係で取り上げることができませんでした。大変申し訳ないと考えております。

山口県からのご要望の全国公立学校退職教頭会への添え状は、お渡しが可能です。事務局長までご連絡下さい。皆さんからのご意見ありがとうございました。



平成27年度 全国公立学校退職教頭会代議員会 静岡大会 平成27年5月26日 於ホテルセンチュリー静岡

## 研修部より

研修元年 — トロイカは走る —

今年本部役員となった新米二人が、研修でチームを組むことになった。研修の意義など悩みは尽きないが、現職時代の経験を生かす《三頭立ての研修部》が走りだした。折しも、佐賀新聞の「県公立校退職教頭会、二十五周年記念誌『楠和』を発行」の記事が目にとまった。早速、佐賀県の村田英次会長に連絡を取り、A四判、一三七頁の冊子をいただいた。編集委員八名により二年がかりで完成された労作には、会員の熱い思いが詰まっている。研修の資料として活用したい。

研修部では、平成十四年から提言集『これからの学校教育を考える』を発行してきた。応募状況などもあり、発行されなかった年もある。今年はずいぶん発行したいものである。そのため、原稿募集の方法を三つ考えた。まず、会報と提言集を車の両輪と捉え、今までに送られてきた（今から送られてくる）会報の中から提言集にふさわしいものを発掘する。静岡大会における事務局長のお願い「会報は本部に三つ五部送付」は、このことも踏まえている。次に、各支部の会報の中で提言集にふさわしいと思われるものがあれば、推薦いただく（自薦・他薦は問わない）。最後に、各支部の会長を介して公募する。現在調整中で、要項が固まり次第、依頼する。その節は高配たまわりたい。

研修部のもう二つの取り組みとして、ホームページの開

設がある。アップされれば、本部と各支部との距離が縮まり、情報の共有が図られる。乞うご期待！

中馬・須山道雄 副馬・西川 順・大西規子

## 事務局便り

事務局長 荻野由男

平成二七年度 全国公立学校退職教頭会代議員会静岡大会は五月二六日二七日に静岡県のホテルセンチュリー静岡で盛大に開催されました。大会に参加下さいました支部、都合で参加出来なかつた支部も大会を応援して頂き有り難うございました。次年度はより多くの支部にお集まりいただき開催できますように心から祈っています。

大会は、天候に恵まれ、写真撮影に始まり開会行事・代議員会・閉会行事へと無事に進行了りました。支部近況報告の中での主題は、組織の維持と叙勲に絞られていたように思われました。組織の維持では、会員の高齢化、病気による退会、新しい会員が入会してこない等、どの支部も同じような悩みを抱えています。叙勲の関係では、教頭として勤務した最終校に功績調書を作成して置いてください。必ず必要になります。

役員承認では、永年本会の会長を務めて来ました金子富美子会長がご勇退され新会長に今まで会計を担当してこられた山浦朝日が就任いたしました。役員一同頑張



雲海の上からの富士山（飛行機の中から）

りますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

叙勲要請活動の中で、本部の添え状が欲しいとの要望がありました。本部役員会で検討し作成した案文を支部長宛お送りいたしました。ご利用になりたい支部は会長まで連絡下さい。本会の公印を押したものをお送りいたします。

さて、次年度の代議員会開催支部が現在決まっております。どこか手を挙げていただけませんかでしょうか、平成二九年度の開催も検討してください。心待ちしております。